

文学館だより

令和 4 年 1 月 1 日
若山牧水記念文学館
TEL 0982 - 68 - 9511
文 責 日 高

あけましておめでとうございます
皆さまにとってよき一年でありますようお願い申し上げます



コロナ禍にあり、複数回にわたり開催延期を余儀なくされてきた『三浦家寄贈資料公開展 繁と敏夫 一受け継がれた二人の絆』を昨年、ようやく開催することができました。ご寄贈くださった三浦さん親子、ご尽力いただいた遠藤堅三さん、奥富紀子さんをお迎えすることも叶い、展示をご覧いただきました。(文学館だより12月号掲載)

今年もたくさんの方々との出会いを楽しみに、お客様をお迎えしたいと思います。4日(火)より開館いたします。皆さまのお越しをお待ちしております。今年もどうぞよろしく願いいたします。

これからの企画

令和3年度 文学館の主な企画案内

企画展「牧水全国歌碑めぐり」	現在開催中	～ 1月23日(日)
高森文夫を偲ぶ詩大会表彰式	1月16日(日)	
企画展「第26回若山牧水賞」	1月30日(日)	～ 3月6日(日)
牧水母校作品展	2月8日(火)	～ 3月31日(木)
三浦家寄贈資料公開展「繁と敏夫」第3期	3月13日(日)	～ 5月29日(日)

今年もたくさんの方々の企画をお届けしていきます。随時、文学館だより、若山牧水ホームページ、若山牧水記念文学館フェイスブックにてお知らせします。お楽しみに。

12月まで文学館で開催しておりました「^{とき}牧水と時代を紡いだ百人」展 (宮崎市在住甲斐猛義氏作) は、場所を移して、展示延長いたします。

12月26日(日)から1月10日(火)まで 日向市駅ギャラリー
1月11日(水)から1月21日(金)まで 日向市役所1階ロビー



見逃した方、もう一度とおっしゃる方、どうぞお出かけください。文学館では、10月から2ヶ月間、展示させていただきました。1,150名を超える方々が来館され、感激感嘆してお帰りになりました。「牧水は延岡とも縁がある。延岡でもやってほしい。」と言って帰られる方もいらっしゃいました。



左 甲斐猛義氏
右 那須文美顕彰会会長

第11回 青の國若山牧水短歌大会表彰式

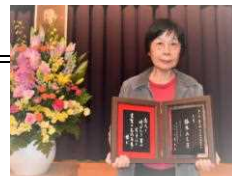
2年ぶりに開催



令和3年12月19日(日)、第11回青の國若山牧水短歌大会表彰式を開催いたしました。牧水生誕の地を訪れたいと遠くは青森県からお越しくださった受賞者をはじめ、多くの方にご出席いただきました。選者伊藤一彦先生、大口玲子(りょうこ)先生は、出席されたお一人お一人の作品に触れながら講評され、作者とその作品への思いを感じました。大口先生は「今年は壇上に並んでいる子どもたちを見るだけで何だか胸がいっぱいになりました。」と、表彰式終了後、感想を寄せられました。

恋人と呼びたき男が片手ほど書架の名作全集に棲む

県内在住鈴木みち子さんの作品が第11回青の國大賞に決まりました。「読書好きの作者ならではの歌。ユーモアもある斬新な発想が魅力。」と伊藤先生の選評です。



過去の大賞作品

- 第1回 大津波これほど蹂躪されたるも海に怨みをもつ人はなし
- 第2回 歌の息をふうはり包みし牧水の文字すっきりと二行に立てり
- 第3回 雁の名を持つレ点 羽ばたきのできぬ片羽を小さくひらく
- 第4回 あさはふる風立つらしも行き場なき水田の水にさざ波立てり
- 第5回 よろこびを吹き出すようなひょっとこ踊りひょっとこひょっとこ笑ひはじける
- 第6回 いつの日か白雪姫の馬車になる日向南瓜の夢の告白
- 第7回 ハイジャンプ放物線を背で描くおへそは空に頂点記す
- 第8回 青空にひとひらの雲消えること流れることから許されており
- 第9回 自転車のかごに世界の産声を満たして走る新聞少年
- 第10回 太陽の光を2キロ蓄えて完熟マンゴー東京へ発つ



次は、あなたの番かもしれません

五・七・五・七・七のリズムにのせて一首詠んでみませんか

牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

部屋出でてたち迎ふれば真ひがしの箱根の山ゆ昇る初日子

昭和2年 元旦

『この年は、^{いちみち}市道の家でめずらしく静かなお正月を過ごした。そしてまた静かな歌をかなり多く作った。』(大悟法利雄『若山牧水伝』)とあり、昭和二年新年には50首以上もの歌が並んでいます。

元日の明けやらぬ部屋に^{ともし}燈火つけただに坐りぬて心つつまし
路ばたの石に落ちたる木洩日の照り白ひつつけふは元日
ふるさとの日向の山の荒溪の流清うして鮎多く棲みき

まさに、穏やかな歌が連なります。沼津での静かな正月だったことが窺えます。妻喜志子を伴い朝鮮方面へ揮毫旅行に出かけたのもこの年。最後の坪谷帰郷を果たしたのもこの年でした。

愛され続けています

生家花壇が手入れされ、また新しい花を植えていただきました。
生家裏山歌碑参道の草刈りも地元の方が引き受けてくださいました。
以前、台風が来たとき率先して補修してくださったのも地元の方でした。
牧水も、牧水生家も、みんなに愛され続けています。

